

第3回 富山県ウッド・チェンジ協議会 議事概要

日時：令和6年10月10日（木）13:30～16:00

会場：YKK50ビル 会議室5

概要：

はじめにアドバイザーである(株)モリアゲ 長野代表から全国でのウッド・チェンジに関する取組状況を紹介していただき、事務局から県内における民間建築物の木材利用について報告。

その後、木材の防・耐火性に対するイメージ緩和に向け、とやま県産材需給情報センターから、木造建築物の防・耐火性能についてイラストや図を用いて分かりやすくした説明があり、それについて会員から意見があった。会員からの意見を踏まえ、対象者や目的を絞り、今年度中に防・耐火性に係る資料の作成を行う。

最後に、県内初の木造中高層建築物であるパッシブタウン第5期街区の建設状況についてYKK不動産（株）から説明をいただいた後、現地視察研修を行った。

【会長挨拶】（津田農林水産部長）

【議事】

（1）アドバイザーからのウッド・チェンジに係る情報提供

- ①全国でのウッド・チェンジの事例についての紹介
 - ・宮崎県での主伐再造林を絡めたJ-クレジット活用に関する協定事例
 - ・高知県での木造・木質化された建物での税制面等での優遇制度
 - ・木材利用促進協定を締結した民間企業によるウッド・チェンジの取組
 - ・農業用施設でのウッド・チェンジ
 - ・建築物に留まらない、食材や化粧品、繊維素材としてのウッド・チェンジ
- ②ウッド・チェンジによるネイチャーポジティブへの貢献に対する情報提供
 - ・30by30 達成に向けた、環境省による自然共生サイトへの支援促進の取組
 - ・森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針
 - ・森林を守り上流域の環境を改善することが下流域の環境が安定する
- ③森林保全と地域活性化に関する協定の紹介
 - ・南砺市×島田木材×more trees×ミチルワグループ

（2）県内における民間建築物の木材利用について（情報提供）

- ①県産材の利用に関する建築物木材利用促進協定の締結の状況について
 - ・YKK不動産（株）
 - ・（株）北陸銀行
- ②県内の民間建築物における木材利用について
 - ・木の香るとやまの街づくり事業についての事例紹介
 - ・とやまの森づくり CO2 吸収・固定量認証制度の紹介

（3）木材の防・耐火性に対するイメージ緩和について（木造建築物の防・耐火性能の概要説明）

- ①建築基準法で定められた耐火建築物、準耐火建築物、その他建築物について
 - ・RC造、S造、木造で基準は変わらない。

- ・耐火建築物は、放任火災でも崩壊しない建物（木材の現し利用は厳しい）
 - ・準耐火建築物は、消火・避難等の時間倒壊しない建物（木材の現しが可能）
- ②中大規模木造建築物の防火基準の改正について
- ・木造の準耐火建築物実現のために、様々な実験・検証が繰り返されてきた。
 - ・その結果、「安全性の確保」と「木質化」を両立した木造建築物が建てられるようになっている。
 - ・中大規模木造建築物の防火基準の改正により、木造建築物が建てやすくなっている。
 - ・建築基準法における防・耐火性能の要件は3点
 - イ．面積と高さの規定
 - ロ．防火地域等の地域の規定
 - ハ．不特定多数の利用が見込まれるか等の用途の規定
- 以前は3点全てに耐えうる耐火建築物のみしか認められなかったが、今は、柔軟に適用できるようになってきている。

木材の防・耐火性に対するイメージ緩和についての意見交換

○長野アドバイザー

ネガティブイメージ払拭のための資料を作成することだが、ターゲットを決める必要がある。施主向けなのか、設計者向けなのか。対象によって記載する内容が異なるのではないか。

ただ、設計の知識が全くない施主向けに伝えるのであれば、「RC造、S造、木造で火災率に有意な差はない」という情報や、「木材はゆっくりと燃えて強度が落ちないので、鉄のように高温化ですぐに強度が落ちる材量よりも構造材としては安全」という情報などを提供した方が良いのではないか。ただし、そういったパンフレットはすでに林野庁の方で作成されている。

先ほどの説明を聞くと、「建築基準法の改正に併せて耐火面では木造がさらに使い易くなったので、使ってほしい。」というものかと感じたが、県産材の活用につなげるのであれば、県産材の施工事例などを紹介して、部材の普及に繋げたり、より多くの木造建築物を建てる方に力を入れた方が良いのではないか。

○ウッドリンク(株)

防・耐火については分からないが、自社では大中規模の建築物というよりも、小規模店舗をいかに木造で作るかという研究に取り組んでおり、トラス構造、ラーメン構造などを用いて10m、20mの大スパンに対応可能な建築物の建造に向けて研究を進めており、今までの4割減のコストで建築できるようになってきている。これからも、木材の利用に貢献していきたい。

○(株)鈴木一級建築士事務所

説明にもあった通り、建築基準法の改正により木造でも建てやすくなったのは事実。但し、一般向けに説明するのであれば、耐火性能というよりも、コスト面が一番重要であり、RC造、S造、木造でのコスト比較などをした方が、響くのではないか。

長野アドバイザーも対象を絞った方が良いとのご意見だったが、どの規模、どんな用途で建てるかによっても説明の仕方が異なる。一般ユーザーであれば、木造にこだわらず、RC造耐火建築物での内装木質化で良いという話もある。

○大建工業(株)

自社では木製の階段を作っているのだが、設計事務所等から、木製の階段は耐火建築物に使えないのではないかなどとの問い合わせがよくある。そのたびに、耐火建築物は燃えないことが重要なのではなく、避難等の一定の時間その機能を維持すれば問題なく、自社の製品は問題ないということを説明している。建築関係で働いていても、木造になじみのない方は多くいるので、こういった耐火構造について分かりやすい説明資料は必要だと思う。

また、一般向けにいうのであれば、小学校の木造化による学力の向上や情緒の安定など良いデータなどがあるのであれば、そのような効果をアピールしていくのも大事なのではないかな。

○(株)島田木材

素材生産組合としては、防・耐火という段階になると特に意見は無い。

やはりコスト面での心配があるため、その現状を示すことが必要なのではないかな。また、木造建築物の事例集を作ったり、ビジュアル面で分かりやすい資料を作るということも必要だと考える。

そして一番重要なのは、分からない人にとっては相談場所が非常に大事になってくると思う。とやま県産材需給情報センターに相談すれば、木造についての分からないことに対して分かりやすく説明してもらえる、対応してもらえると云ったPRをすることも重要なのではないかな。

○富山県木材組合連合会

木材を売る立場で発言すると、不燃木材は納期がかかる。納品後の白化、液だれといった劣化がある。受注会社によって品質のばらつきもある。さらに単価も上がる。また、JAS材認証なども同様だが、不燃材とした材料に、上から塗装をすると、不燃材として認められなくなると云った制度の仕組みもあり、使いづらい。

ただ日々、技術は発達しており、塗装をした不燃材商品も開発されている。そういった意味で、防・耐火性能があり、使い易い製品が増えていけば良いと思う。

○富山県森林組合連合会

リーフレットには、「どうして防・耐火構造が必要なのか、耐火構造・準耐火構造の違い、建築基準法の概要」などを分かりやすく記載して、木材を使うハードルを下げる必要があると思う。

また、住宅なのか、非住宅なのか、現しなのか、隠しても良いのか、どこに相談すればよいのか、安心して使える製品は何か、と云ったことを項目別にして記載した方が分かりやすいのではないだろうか。

○YKK不動産(株)

耐火構造の話では、燃えていけないわけではなく、逃げ切れれば良い。RC造でもS造でも火事になれば燃えてしまう。ということを端的に伝えられれば良いと思う。施主向けの資料であれば、細かい説明は不用で、なぜそうなのか、という部分は設計者が考えることではないかな。

本日の会場であるYKK50ビルは木造ではない。現しで耐火性能を確保するとコストがかかる。メンテナンス等のコストも考えると木造は難しい。

○(有)中嶋工芸社

様々な事例から中大規模の木造建築物は都会に建てられ、大手ゼネコンばかり建築している印象がある。そうではなく、民間会社向けの、小さなビルの事例がウッド・チェンジには必要ではないだろうか。設計士、大家、工務店、それぞれがチームになる仕組みづくりや、そのマニュアル作りも必要なのではないか。

○(株)北陸銀行

11月11日にオープンする北陸銀行魚津支店では、内装材に県産材を使用した。木造建築物の普及という点では、木造でもできるという事例を発信していくことが必要なのではないだろうか。

○県営繕課

先ほどからの意見とも重複するが、発信するターゲットを絞ることが重要。事例も踏まえ、イニシャルコスト、ランニングコストの比較などの費用面についてが求められているように思う。

○県建築住宅課

今後、省エネの時代がやってくるため、木造と省エネについてのアピールも必要なのではないか。

また、木材の品質と言っても、不燃性、節などの見た目、含水率、強度、様々な品質がある。地元の建築士の方と話していても、「良いものはあるが高い。実際に使う安いものはそれなりの品質のものになる。」という話も聞くので、そういった資料もあれば良い。

○県木材研究所

木材研究所への問い合わせでは、内装木質化における品質面の話がある。薬剤の使い方など技術的な課題を研究する必要がある。

内装木質化と言えばスギ材という先入観もあるが、例えばホオノキなど、別の素材を使うことによってより良いものとなる場合もある。

(5) 現地視察研修 パッシブタウン第5期街区 (黒部市三日市 4016-1)

1. YKK 不動産より概要説明
2. 現地視察

